



南が丘通信

教育目標

進んで学び深く考え、積極的に行動する人
 思いやりの心を持ち、互いに協力する人
 心身ともに健康で、創造力のある人

練馬区立南が丘中学校

校長 宮田 健史

〒177-0035

練馬区南田中 4-8-23

TEL 03-3904-5782

URL <http://www.minamigaoka-j-nerima-tyky.ed.jp>

令和3年度 臨時号 令和4年3月18日発行



令和3年度 学校評価アンケート結果報告及び自己評価

1. 実施方法 Google forms による意識調査
2. 実施時期 令和3年11月～12月
3. 調査人数 生徒 263名 (90.1%)、保護者名 205名 (73.1%)、教職員 23名 (100%)
評議員 8名 (88.8%)
4. 調査結果 肯定的な意見を抽出 (4段階中「そう思う」「やや思う」の割合)

NO.	質問	生徒 90.1	保護者 73.1	教職員 100.0	評議員 87.5	評価・改善策
1	生徒は学生生活を楽しんでいると感じている。	84.1	84.5	100.0	100.0	授業・行事などが制限される中でも、生徒が楽しく安心して学校生活を送れていることは大きな成果である。今後もできることを丁寧に進めていく。
2	生徒を安心して学校に通わせることができる。	93.7	90.7	100.0	83.3	
3	授業は1時間の「ねらい」が明確になっている。	84.1	73.0	91.7	100.0	新学習指導要領の「指導と評価の一体化」を推進するため、ねらいの提示と振り返りをより一層重視して指導するようになった。めあてをより具体的に提示できるよう改善を図っていく。
	授業の「ねらい」が明確になり、学習への意欲が高まった。	75.3	—	—	—	
4	一人一人の生徒を大切にしたい、個に応じた学習指導がされている。	75.7	62.9	91.7	100.0	巡回心理士らの助言を適応推進委員会で確認し、丁寧に実施している。外部機関との連携についても積極的に推進している。
5	読書活動・話し合い活動・発表活動など言語活動を重視した授業が進められている。	85.4	78.9	87.5	100.0	感染症拡大防止のために活動が制限されたが、少人数での話し合いやタブレットを活用した協働学習など、授業方法・形態を工夫し、昨年度以上に実施することができた。
	言語活動を重視した授業を通じて、表現力が高まった。	80.3	—	—	—	
6	実物投影機や映像資料などICT機器を活用した授業が進められている。	85.4	72.7	87.5	100.0	生徒用タブレット導入1年目として、積極的に活用する授業を推進した。タブレット操作に不慣れな生徒からの不安な声もあるため、授業での活用だけでなく習熟度を高める取り組みを並行して推進していく。
	ICT機器を活用した授業を通じて、学習への理解が深まった。	69.9	—	—	—	
7	家庭と協力し、家庭学習習慣定着の取組が進められている。	75.3	56.2	79.2	100.0	学年ごとの長期休業期間の学習時間の目標化、明けテストの実施により意識を高めることはできた。感染症拡大防止のための午前授業などの際には、計画的な家庭学習の方法を検討する必要がある。
	家庭学習習慣定着への取り組みを通じて、家庭学習習慣が定着した。	82.8	—	—	—	
8	生徒の学力、能力、努力を適切に評価している。	79.9	77.1	100.0	100.0	指導主事を講師として評価についての校内研修を実施した。また不適切な評価が起こらないよう、校内での相互点検も行っている。

9	生徒一人一人が大切にされ、気持ちが考慮された生徒対応が行われている。	88.3	71.1	95.8	100.0	長期休業明けのアンケートや面談期間中のトーキングタイムなど、全教員体制で教育相談を推進した。関係機関と連携した対応も強化している。
10	生徒は学校の決まりを守り生活している。	78.7	69.1	100.0	100.0	登下校のマナーや不要物の持ち込みなどについて課題が上がった。組織的に対応し、改善されている。
11	生徒は「あじみこし」の大切さを理解するとともに、自ら実践できている。	87.4	88.3	91.7	100.0	「あじみこし」については、生徒の自治的な活動を通して推進できている。再開された校外での行事を通してさらに意識を高めていく。
12	いじめ未然防止のための指導・教育相談・環境整備に努めている。	85.8	85.2	95.8	100.0	アンケートや日々の生徒観察などを通して、未然防止、早期発見による対応を行うことができた。道徳を通した心の育成にも力を入れている。
13	家庭と協力し、インターネット・SNSトラブルの未然防止に努めている。	83.3	78.7	95.8	100.0	SNSトラブルについては未然に防止できている。さらに、利用時間・方法などについての指導を充実させる必要がある。
14	将来の生き方を考えさせたり、体験させたりする適切な進路指導が行われている。	82.4	73.9	100.0	75.0	各学年計画的なキャリア教育を推進している。2学年では中止になった職場体験の代替として職業インタビューをオンラインで実施することができた。
15	進路希望調査・三者面談・キャリアサポートなどを通じて家庭と連携し、適切な進路指導が行われている。	83.3	56.4	95.8	100.0	3年生は年3回の進路面談を実施し、保護者との共通認識を図っている。1年生保護者にも進路情報を保護者会等で発信していく。
16	運動会や文化発表会など行事が充実し、生徒が意欲的に活動している。	84.5	74.5	95.8	100.0	規模は縮小したが生徒が主体的に活動する運動会・文化発表会を実施することができた。行事を通しての成長を大切に、できる限り実施する方向で検討を進めていく。
17	生徒会・委員会活動が活発で、積極的に生徒が参加している。	90.8	79.8	95.8	100.0	生徒会では生徒の意見を取り入れる目安箱を導入した。また、各委員会でも学校生活を向上させるキャンペーンを主体的に進めている。
18	部活動が活発に行われており、主体的に生徒が参加している。	93.7	88.1	100.0	100.0	感染症拡大防止のため、限られた活動時間となるが、バスケ部・ソフトテニス部などでは大会で入賞する結果を出している。
19	オリンピック・パラリンピック教育が教育活動全体を通じて推進されている。	88.3	71.1	79.2	80.0	アスリートによるオリパラ講演会や、2年生によるオリパラ学習・発表会など計画的に推進することができた。
20	特別支援教育に力を入れ、交流や共同学習を進めている。	74.9	77.3	75.0	100.0	交流給食・合同行事の中止等、限られた活動となった。相互の情報発信を強化し、できる活動を実施していく。
21	南が丘小・南田中小と連携し、小中のスムーズな接続を推進している。	57.3	74.1	62.5	100.0	小学生の授業・部活動体験が中止となったが、一部の生徒が挨拶運動・リトルティチャー・シューズバンクプロジェクトなど、可能な交流を実施した。
22	避難訓練、不審者対策などの安全指導の充実に取り組んでいる。	90.4	85.2	91.7	80.0	火災・不審者を想定した、実践的な避難訓練を実施することができた。生徒の主体的な判断力を高めることができた。

23	掃除が行き届き、施設・設備を含めてよりよい環境の整備に取り組んでいる。	91.6	92.2	95.8	100.0	体育倉庫等の不要物・危険物についても、長期休業中に廃棄し、より安全で、衛生的な環境を整備することができた。
24	給食の献立は工夫され、栄養のバランスがよく、安全である。	93.7	88.8	100.0	100.0	学校栄養士が中心となり、栄養・衛生管理を適切に行うことができた。残食を減らす取り組みを家庭とともに進めていく。
25	感染症拡大防止対策のための環境整備が進められている。	90.0	89.2	100.0	100.0	文科省・区のガイドラインに従って適切な感染症予防対策をとることができている。forms による欠席連絡など、ICT機器の活用も進めている。
26	感染症拡大防止対策のための生徒指導が行われている。	89.1	84.2	100.0	100.0	昨年作成した「NEW LIFE STYLE」を改訂や「ほけんだより」を通して、感染症拡大防止のルール・マナーについて丁寧に指導を行うことができた。
27	学校行事や授業公開は保護者・地域が参加しやすいものになっている。	—	64.1	62.5	75.0	運動会（3年のみ）、学校公開は人数制限、事前申し込み制をとった。事前の人数把握や混雑回避のためであることをご理解いただきたい。
28	電話や学校を訪問した際の対応は親切で好感がもてる。	—	88.7	95.7	85.7	地域・保護者との連携を重視し、開かれた学校を目指し、教職員の接遇の向上に努めている。
29	保護者・地域に対して、教育内容等を学校だよりやホームページ等で積極的に発信している。	—	86.1	95.8	100.0	学校だよりやホームページを活用した情報発信を積極的に行うことができた。オンライン写真販売、運動会の動画配信など新たな取り組みも進めている。
30	保護者・地域の意見を聞き、連携しながら学校を運営しようとしている。	—	73.4	87.5	100.0	保護者からの意見を聞く機会が限定されたが、アンケートやいただいた意見については全教員で共有し、よりよい学校運営に生かしている。

5. 自己評価

(1) 成果

【人権感覚の向上・生命を尊重する教育実践】

- ・新型コロナウイルス感染症に対する差別や偏見をなくすための道徳教育を重視し、制限された生活の中でも他人への思いやりや前向きな姿勢を忘れず生活することができた。
- ・教育公務員としての自覚と人権感覚をもち、生徒・保護者・地域に対応することができた。
11月に生徒に実施した「体罰調査アンケート」では、体罰や不適切な指導についての報告はなかった。

【教育課程の適切な実施】

- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のための緊急事態宣言により、9月は午前授業となったが、教育課程の改定による授業時間の確保を行い、生徒の学習保障を行うことができた。
- ・2学年の職場体験が中止となったが、計画の見直しを行い、「職業講話」「職業インタビュー」を実施した。職業インタビューでは、政治家・JAXA職員・マジシャンなど30人程の職業人にオンラインでインタビューを実施した。発表のまとめとして、練馬区「映像と文化と教育の連携事業」を活用し動画の作成を行った。

【ICT機器の活用】

- ・実物投影機・デジタル教科書など、ICT機器の活用を推進することで、視覚的効果を高め、理解を深めることができた。
- ・各教科での課題配信・提出、作品の振り返り、話し合いなどの協働学習、自主学习ドリルソフトの活用など、積極的に利用している。
- ・新型コロナウイルス感染症が拡大した時期（10月・1～2月）は、濃厚接触者、感染予防のために出席が難しい生徒を対象に、教室での授業をオンラインライブ配信した。

- ・欠席の連絡、行事や保護者会の出欠など、家庭との連絡手段についても GoogleForms を使用し、業務の効率化やペーパーレス化を進めている。
- ・教職員も毎月複数回の研修会を実施した。タブレットを活用した小テスト、学習支援ソフトを活用した道徳での話し合い活動の実施などに全教員が取り組み、ICT機器の習熟度を高めるための努力を行っている。

【大幅な決まりの見直し】

- ・社会の多様性に対応し、生徒の健康と安全を重視し、生徒の自主性を育成するために、大幅な決まりの見直しを行った。
- ・新標準服のセーターの着用を認める、靴下の長さを調節できる、衣替えの時期を設けないなど、健康面を重視し、生徒が主体的に判断できるように配慮した。
- ・令和4年度から標準服にチェックのスラックスを新たに導入し、男女の区別をなくし、3つのパターンの中から生徒が選択できるようにした。

【積極的な生活指導・教育相談】

- ・基本的な生活習慣の確立を目指す「あじみこし」運動は生徒に浸透している。生徒会・委員会を中心とした主体的なキャンペーン活動などが活発に実施されている。
- ・2か月に一度生活アンケートを実施し、生徒の心身の健康状況を把握し、積極的な教育相談を実施することができた。
- ・トーキングタイムを年3回実施し、生徒が話をしやすい環境をつくっている。今年度は、校長・副校長との話を希望する生徒もいた。
- ・1年生ではSC・心のふれあい相談員による全員面接を行い、いじめの未然防止・早期発見に努めるとともに、早期対応・早期解決を図ることができた。多くの生徒が楽しく、安心して登校することができている。

【個に応じた指導の充実】

- ・特別支援教育コーディネーターを中心に月2回適応推進委員会を開き、支援が必要な生徒への対応方法について協議した。個性に応じた合理的な配慮を行うために、巡回心理士と連携して、個別指導計画を作成し、全教職員の共通認識を図った。
- ・不登校生徒に対しては、管理職を含めた全教員が関わり、教育相談や別室での指導を行った。また、適応指導教室やスクールソーシャルワーカー、子ども家庭支援センターなどの機関との協力・連携を推進した。
- ・基礎的な学習を支援する学習教室を、定期考査前・夏季休業日に計15日実施した。学年教員と大学生の学習支援員が協力し、生徒の自主的な学習を支援した。

【地域に開かれた学校づくりの推進】

- ・学校だよりや学校ホームページを活用し、学校の教育活動の様子や学力調査の結果等について積極的に情報発信を行った。
- ・生徒タブレットに、運動会や特別支援学級連合文化発表会の動画を配信する新たな取り組みも進めた。

(2) 課題

【新型コロナウイルス感染症拡大防止対策による教育活動の制限】

- ・他の行事や進路指導計画との調整のため、3年修学旅行・校外学習、2年職場体験・スキー移動教室、特別支援学級夏季移動教室などの行事を実施することができなかった。早い段階で中止を決めた職場体験以外は、直前に中止となり、実施に向けた事前学習とその発表等の学習にとどまった。
- ・授業では、家庭（調理実習）、音楽（合唱）、保健体育（接触を伴う競技・水泳）などの制限を行った。音楽でウクレレの演奏を実施するなど、指導計画を変更して対応した。
- ・小中一貫教育の活動は、小学生の授業・部活動体験が中止となった。しかしオンラインで中学校紹介を行ったり、人数を制限して挨拶運動やリトルティーチャーの活動を実施したりすることができた。
- ・行事への保護者参加が制限された。一部の保護者からは、制限緩和を求める意見も挙げられた。

【ICT機器の導入に伴う課題】

- ・文字入力など、操作に苦手意識がある生徒がタブレットでの作業を進める際に時間がかかってしまう。また、タブレットに配信されている連絡や課題に気づいていないことがある。
- ・自宅で充電をしていない生徒が、学習活動に参加できなくなることがある。

【その他】

- ・「個に応じた指導」「家庭学習習慣定着の取組み」について保護者の理解が得られていない結果となった。
- ・携帯電話・整髪料・化粧品等の不要物の持ち込みが見られた。
- ・運動部の入部者数の偏りが大きく、試合参加の規定人数を満たすことができない部活動が発生している。

(3) 改善策

【新型コロナウイルス感染症拡大防止対策による教育活動の制限】

- ・行事・授業を計画する際に常に副案を策定し、実施が難しい状況でも一定の成果や達成感が得られるよう工夫する。
- ・生徒用タブレットについての習熟度を生徒・教員ともに向上させる。連絡方法や課題配信方法、オンラインでの双方向通信、生徒間の共同学習等を活用し、授業方法の幅を広げる。
- ・「交流学习」「小中一貫教育」については、ICT機器を活用した積極的な情報発信を行っていくことによりさらに交流し、相互理解を深めていく。
- ・行事への保護者参加については、区内・近隣校の感染状況を踏まえ、適切に設定することができた。保護者・地域にはご理解をいただけるよう伝えていく。

【ICT機器の導入に伴う課題】

- ・学活などで、操作方法の確認、キーボード入力スピードの向上などの取り組みを進めていく。また生徒が自宅で習熟度を上げる取り組みを推進できるよう、情報発信を行う。

【その他】

- ・「個に応じた指導」「家庭学習習慣定着の取組み」についての保護者理解を得るために、保護者会などでの説明を丁寧に行っていく。またデイリーライフ（連絡帳）、長期休業中のしおり、キャリアパスポートを活用した家庭との情報交換を密に行う。
- ・不要物の持ち込みについては、現在改善がみられている。生徒の規範意識向上を図るための道徳教育を推進する。また生徒会・委員会による自治的な活動の活性化、保護者への啓発活動を進める。
- ・部活動の在り方について検討委員会を立ち上げ、中長期的な方針を検討する。

6. 評議員より

(1) 成果

- ・今年度もコロナウイルスによる厳しい制限の中、先生方、PTA役員の皆様、保護者の皆様の熱心な尽力により、子供たちが安全・安心に教育活動を送ることができ、幸せだと思う。
- ・教育活動について常に副案を検討することは有効であると考えている。継続してほしい。
- ・「特別支援教育に力を入れ、交流・協働学習を進めている」の割合が上がっている。E組との行事や学校生活を通して、同じ中学校の仲間であるという意識があるのではないかと感じた。これからの進学、社会生活にも良い影響があると思われる。
- ・「家庭学習習慣の定着」の割合が上がっている。コロナ禍で多くの制限があり、家の中ではテレビやネットなどの誘惑がある中で、家庭学習の習慣づけができていると生徒が自己評価できていることが素晴らしい。これからも継続してほしい。

(2) 課題

- ・学習や進学指導について、保護者の評価が低いのが、生徒の評価はそれ程ではない。学校と保護者の相互理解を高める取り組みが必要であると考えている。
- ・生徒のICT機器活用による学習理解度が、もう少し上がることを期待する。
- ・ある保護者から、「面談で自分の子供が学校でどんな様子かを聞いたかったのだが、担任の先生が様子を分かっていないようであった」と聞いた。小・中学校での担任の役割の違いへの理解と子供の様子が親に伝わる方法を検討してほしい。
- ・評価について、生徒・保護者の割合と教職員の割合に差がある。先生方は限られた中で大変なことと思うが、通知表等の数字だけでなく、日々の学校生活で生徒に対して良いと感じたことを今より少しでも多く声に出して伝えてほしい。それにより「自分をきちんと見てくれる」と生徒が感じ取れると思う。

- ・生徒と保護者の評価の割合に開きがある。「自分の子供は全く学校の話をしてくれない」という保護者の話をよく聞く。学校からのお便りも保護者に渡すのを忘れていたことも多数あると聞く。知らない・聞いていないと感じることで、評価できないのではないかと感じた。できるだけ出せる情報は出してもらおうことや、ホームページに配布物をアップし情報公開をアピールすることで、保護者の安心にもつながると思う。

(3) 意見・要望

- ・オンライン授業などで映像授業を見る、プリント配布の代わりにタブレットを見る等だけでなく、コロナ禍でなくともICT機器を活用した授業を継続して行ってほしい。「熊本県山江村ICTの10年」という記事を以前読んだが、産官学連携で10年取り組んだ成果がよく出ていたとあった。欠席者へのオンライン授業の取り組みなども続けていただきたいと思う。
- ・自分の子の進路選択の際に、中学校での職場体験の経験が大いに役立った。コロナ禍であっても、できる方法で取り組みを続けてほしい。
- ・運動会の際、グラウンド南側の駐車場から観覧している保護者がいた。安全面を考えて、保護者にご配慮いただきたい。
- ・コロナウイルス感染者・濃厚接触者となった生徒や、ワクチンを接種していない生徒に対して、差別・偏見・いじめ・誹謗中傷などが起こらないよう取り組みを進めてほしい。
- ・コロナ禍でコミュニケーションが減っているが、重要であると考えている。「SNS・オンラインをどう活用していくか」について、しっかりと取り組んでいく必要がある。

【自己評価のまとめ】

本年度も学校教育活動に多大なるご支援をいただきありがとうございました。

生徒・保護者・教職員・評議員の皆様からの様々な意見を分析し、令和3年度の自己評価を作成いたしました。

昨年度に引き続き、学校の教育活動をご覧いただく機会が少ない状況で、アンケート調査を行ったため、学校と保護者の共通理解が図れていない状況を感じました。ホームページや学校便りを充実させるとともに、ICTをさらに活用し、積極的な情報発信を行っていきたいと思います。保護者・地域の皆様も、ご意見ご質問等ありましたら遠慮なくお問い合わせください。

次年度も、新型コロナウイルス感染症が終息しない状況での教育活動が予想されます。生徒の健康・安全を最優先にしつつ、生徒が自分の成長を実感できるよう教育活動を展開してまいります。保護者・地域・感謝の皆様の一層のご支援ご協力をお願いします。

【問い合わせ先】

練馬区立南が丘中学校
副校長 神藤 陽平
03-3904-5782